

**福祉村病院(関連施設含む)へ[入院・受診]された患者様ならびにご家族様へ
(研究に関する情報)**

当院ならびに関連施設では下記の臨床研究を実施しております。

本研究の対象者に該当する可能性のある方で、研究への協力を希望されない場合は、下記に記載されている研究の担当者までお知らせください。なお、研究への協力を希望されない場合は、いつでも拒否ができ、そのために診療上で不利益を被ることはありません。

研究課題名	環境・遺伝要因から観た腸内環境と免疫応答の相関に関する研究 (福祉村病院倫理委員会承認番号#405)
当院の研究責任者	福祉村病院長寿医学研究所 研究員 赤津 裕泰 (名古屋市立大学医学研究科 教授)
他の研究機関および各施設の研究責任者	<p>【国立研究開発法人】 国立長寿医療研究センター 副所長 丸山光生</p> <p>【IFOM-FIRC 分子腫瘍学研究所】(イタリア・ミラノ) Stefano Casola 博士</p> <p>【名古屋市立大学医学研究科 地域医療教育学分野】 教授 大原弘隆</p> <p>【名古屋市立大学薬学研究科 臨床薬学分野】 教授 松永民秀</p> <p>【名古屋市立緑市民病院】 院長 山本憲一</p> <p>【医療法人/社会福祉法人さわらび会】 法人理事長 山本孝之 統括本部長 山本左近</p> <p>【帝京大学医学部 衛生学公衆衛生学講座】 助教 間辺利江</p> <p>【立命館大学薬学部】 准教授 井ノ上浩一</p> <p>【東京農工大農学研究院】 准教授 木村郁夫</p> <p>【森永乳業株式会社 研究本部 基礎研究所】 所長 清水忠金</p>
本研究の目的	高齢者の獲得免疫機能維持のための方策を検討する手がかりを掴む。 ヒトの免疫能は10代中盤から始まるとされる胸腺の退縮と共に低下してくと考えられている。しかし、昨今、腸内環境が制御性 T 細胞の分化誘導に関与するなど、腸内環境と免疫能の interaction が注目されている。我々もこれまで様々な栄養管理状態の高齢者への腸内環境に栄養介入を行い、

	<p>インフルエンザワクチン抗体価を指標としてその可能性を模索してきた。一定の腸内環境介入がワクチン抗体価の有意な上昇と長期維持の持続結果を示すことが出来たが、本研究ではホストの環境・遺伝要因に着目する。インフルエンザワクチンに対する抗体の反応性は加齢により影響を受ける可能性が高いが、記憶 B 細胞の遺伝的影響を排除するため 2 世代間検索を検討する。一方、環境の影響を抑えるために同世代同居者間（施設入所者）、異世代間同居者（同居家族）の症例を検索する。これにより抗体価の上昇・維持に及ぼす要因を絞り込んでいける可能性がある。腸内細菌とその代謝産物も含めた検索は食事の影響、近親者間での違いなども観ていくことができる体制を計画し、抗体産生維持に対する遺伝環境と腸内環境と言う 2 方面に注目し、新たな知見を得たいと考えている。</p>
対象者該当期間	<p>当研究に対して説明を受け、同意を得られた方。 インフルエンザワクチン接種前 1 週間を含め、接種後約 1 年間（その年のワクチン抗体価測定が可能な最長時期）</p>
研究の方法	<p>①インフルエンザワクチン接種 ②前観察期間に以下の項目を調査する。 性別、生年月日、原疾患、既往歴、合併症、アレルギー歴（食物・薬物）、使用薬剤・治療、生活習慣（喫煙、飲酒、運動）、健康食品の摂取状況、日常的食習慣 ③身体状況把握 前観察期間 3, 6, 12, 24, 48 週目に身体状況の把握、それまでの変化等の問診を行う。 ④血液検査および解析（従来は 1 5 ml 強、0,3,48 週は 2 5 m l 程度の採血量） 前観察期間 0 週、摂取後 3,6,12, 24, 48 週に以下の項目について検査を行うとともに、0, 3, 4 8 週で記憶 B 細胞の抗原特異的抗体産生に関わる遺伝子発現パターン解析を行う。 ・血液学的検査・一般生化学検査・インフルエンザワクチン抗体価 ・血漿中短鎖脂肪酸/アミノ酸等代謝産物分析・リンパ球発現遺伝子解析 ⑤便検査 腸内細菌叢、代謝産物プロファイル解析</p>
個人情報の取扱い	<p>長寿医学研究所個人情報管理者、または名古屋市立大学医学研究科の個人情報管理者によって適切に管理される。</p>
お問い合わせ先	<p>名古屋市立大学大学院 医学研究科 地域医療教育学(秘書宛) 〒467-8601 名古屋市瑞穂区瑞穂町字川澄 1 TEL 052-853-8527 (内線 8527)</p>
備考	